

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)フォレストモール東海太田川 B棟	階数	地上1階		
建設地	静岡県東海太田川町東海太田川 東海太田川(旧東海太田川)東海太田川(旧東海太田川)東海太田川(旧東海太田川)	構造	S造		
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	600人		
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2026年3月 予定	評価の実施日	2025年10月20日		
敷地面積	9,658 m ²	作成者	大矢 政次		
建築面積	2,923 m ²	確認日	2025年10月28日		
延床面積	2,833 m ²	確認者	大矢 政次		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 81%

③上記+②以外の 81%

④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)フォレストモール東海太田川 B棟

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質													2.6
Q1 室内環境													2.8
1 音環境													3.0
1.1 室内騒音レベル													3.0
1.2 遮音													3.0
1 開口部遮音性能													3.0
2 界壁遮音性能													3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0
1.3 吸音													3.0
2 温熱環境													2.1
2.1 室温制御													3.0
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ゾーン別制御性													3.0
2.2 湿度制御													3.0
2.3 空調方式													3.0
3 光・視環境													3.0
3.1 昼光利用													3.0
1 昼光率													3.0
2 方位別開口													3.0
3 昼光利用設備													3.0
3.2 グレア対策													3.0
1 昼光制御													3.0
3.3 照度													3.0
3.4 照明制御													3.0
4 空気質環境													3.7
4.1 発生源対策													3.0
1 化学汚染物質													3.0
4.2 換気													3.0
1 換気量													3.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													3.0
4.3 運用管理													3.0
1 CO ₂ の監視													3.0
2 喫煙の制御													3.0
Q2 サービス性能													3.2
1 機能性													3.0
1.1 機能性・使いやすさ													3.0
1 広さ・収納性													3.0
2 高度情報通信設備対応													3.0
3 バリアフリー計画													3.0
1.2 心理性・快適性													3.0
1 広さ感・景観 (天井高)													3.0
2 リフレッシュスペース													3.0
3 内装計画													3.0
1.3 維持管理													3.0
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													3.0
2 耐用性・信頼性													3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振													3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0
2 免震・制震・制振性能													3.0
2.2 部品・部材の耐用年数													3.0
1 躯体材料の耐用年数													3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0
2.4 信頼性													3.0
1 空調・換気設備													3.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													3.0

3 対応性・更新性				0.2	3.7	0.29	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高: 4.27m。		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 0.079。	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			天井こぼし配線のため痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。 天井こぼし配線のため痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。		3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.4
LR1 エネルギー						0.40				3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.93	3.0	3.5	0.30	-	-	-	3.5
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.77	3.0	3.6	0.30	-	-	-	3.6
4 効率的運用				0.2	2.5	0.20	-	-	-	2.5
集合住宅以外の評価				1.0	2.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	2.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30				3.6
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器、また擬音装置を採用。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			② 独自 独自 独自 独自		3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				空調機、小便器	3.0	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				LGS工法により躯体と仕上材が容易に分別可能。	3.0	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			グラスウールのODP:0、GWP:0。		5.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30				3.4
1 地球温暖化への配慮			①		3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器なし。		5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			独自		3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			建物利用者の駐輪場を確保。また、荷捌き用車両の駐車施設も確保。		5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			「光害対策ガイドライン」のチェック項目を過半数を満たしている。		4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			「広告物照明の扱い」のチェック項目の一部を満たしている。		3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)フォレストモール東海太田川 B棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)フォレストモール東海太田川 B棟

計画上の配慮事項	
総合	建物外観の基調色をやわらかい色調(アースカラー系)とし、又、建物高さを低く抑え周辺環境に調和するよう検討した。
Q1 室内環境	外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮。 また、全面的にF☆☆☆☆の材料を採用して空気質環境にも十分配慮した。
Q2 サービス性能	階高にゆとりを持たせた。 また壁長さ比率を小さくすることにより、空間にもゆとりを持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	LGS工法により躯体と仕上材の分別容易性を考慮。 節水に配慮し、節水型便器や擬音装置を採用した。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車スペースを確保するなど交通負荷の抑制に心掛けた。
その他	